

第一章

「いま」区財政は、どんな状況なのでしょう？

この章では、「区の財政状況がどういう状態にあるか」について
まずはじめに **結論** からお話しします。

支出（歳出）面では

近年の実質的な支出総額にさほど変化はありませんが、特定の目的のために
決まって支出しなければならない経費（義務的経費）が増加傾向にあります。

つまり、区民の皆さまからの新しい要望に応えるために使えるお
金が減ってきているのです。区は、「新行政改革プラン(P18 参照)」
を策定するなど、効率的な行政運営を目指して努力していますが、
区財政の状況は厳しさを増しています。

予算は毎年増えて
いるの？

借金がたくさん
あるんじゃないの？

どんな節約を
行っているの？

預金があるから
大丈夫なんでしょ？

収入（歳入）面では

収入の中心である「区税」が景気の低迷により伸び悩んでいます。支出をまかなえるだけの収入が不足しているために、区は預金（基金）を下ろして予算をたてています。

つまり、「赤字予算」なんです。最終的な結果である「決算」においても、預金（基金）は、少しずつ減ってきています。



区の財政を私たちの生活に置き換えてみると、今はこんな状況です。

医療費や食費などが
増えている



給料（収入）は
増えていない

足りない分は預金を下ろしている

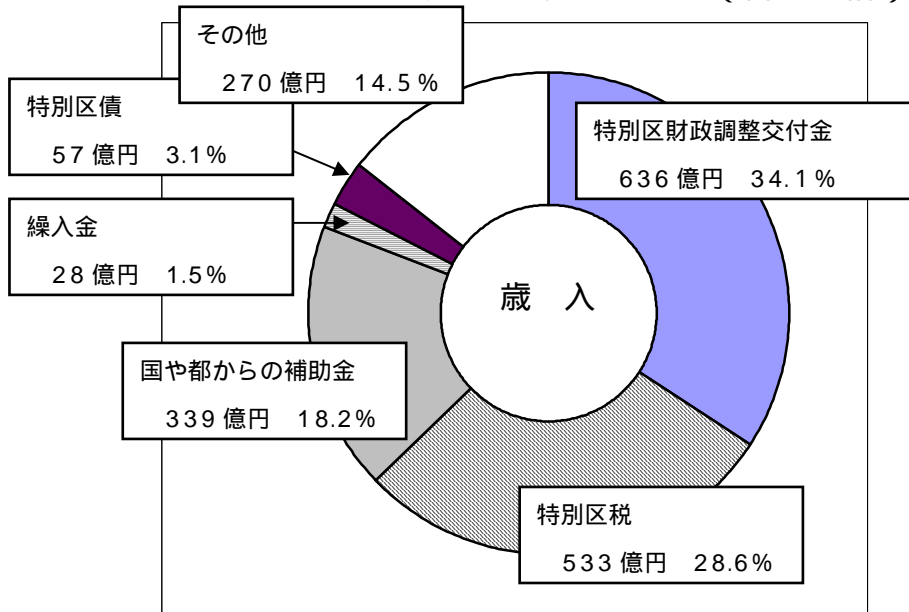
そもそも区の財政の仕組みが分からない



という方も多いかと思います。いきなり専門的な話をしても興味がわきませんよね。

まずはじめに、直近の平成 15 年度決算を例にして、区の収入（歳入）と支出（歳出）について眺めてみて、財政の全体像をつかんでみましょう。

平成 15 年度歳入決算（普通会計）（P34 資料 1 参照）



平成 15 年度は、約 1,863 億円の規模でした。

ちなみに・・



特別区財政調整交付金

東京都と 23 区の間、および 23 区間の事務の分担や財源の偏りを調整するために交付されるお金です。（P35 資料 2 参照）

特別区税

特別区民税や軽自動車税など、区が集める税金です。

国や都からの補助金

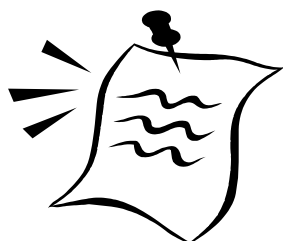
特定の事業に対して交付される、使い道が決まったお金です。

繰入金

区の預金（基金）を下ろして、予算に繰り入れるお金です。

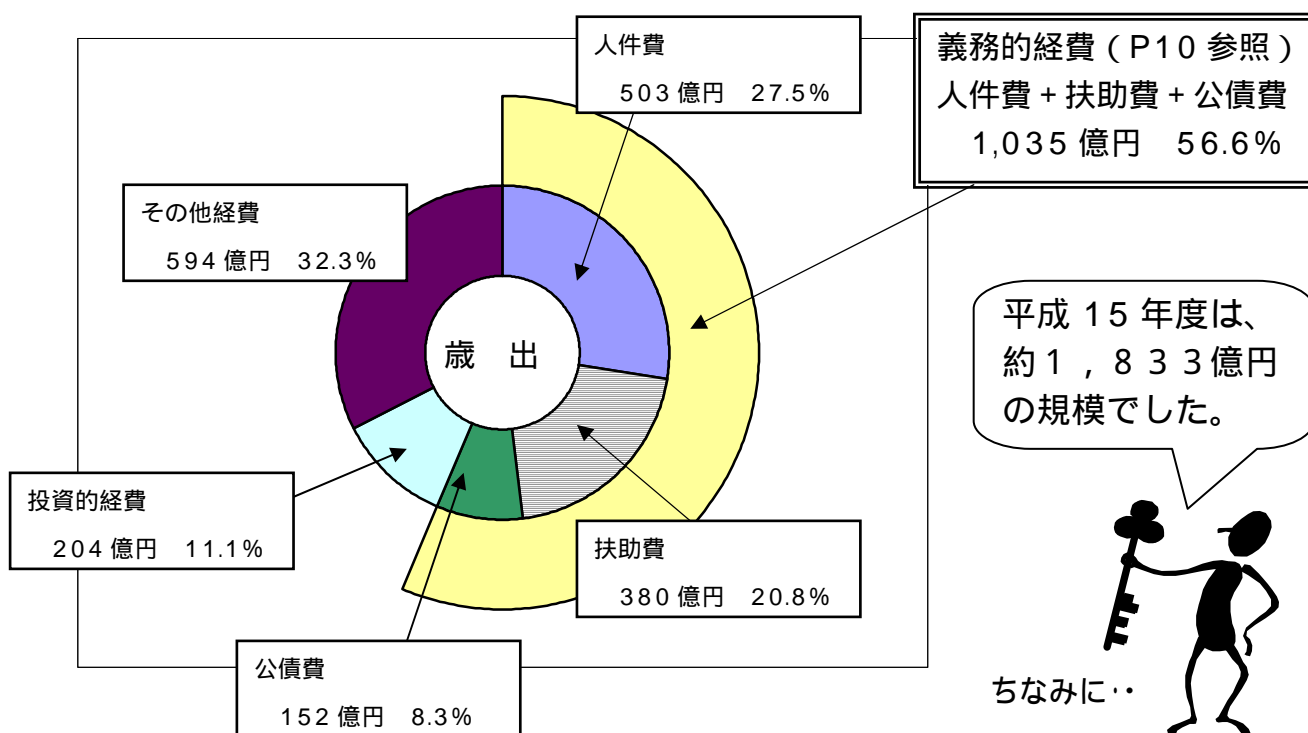
特別区債

区が新たに借り入れるお金（借金）です。



特別区財政調整交付金や特別区税などのように、使い道が決まっていない、自由に使えるお金を「一般財源」といい、区の独自事業などに使える、もっとも重要な財源です。

平成 15 年度歳出決算（普通会計・性質別）(P34資料 1参照)



- 人 件 費** 職員の給与や区長・区議会議員などの報酬などです。
- 扶 助 費** 生活保護や高齢者・障害者・児童を直接援助する経費です。福祉手当や児童手当、就学援助などがあります。
- 公 債 費** 区の借金を返済するための経費です。
- 投資的経費** 施設や道路などを建設するための経費です。
- その他経費** 物品の購入や施設管理、補助金などの経費です。



ふーん、義務的経費 (P10 参照) が 56.6%もあるんだ。その中でも人件費が一番多いけど、区の職員って何人くらいいるのかな？ 借金の返済も 1 年間で 152 億円もあるんだね。

他区と比べて財政状況は良いの？



「区より良い」とか「悪い」と、一言で言いきれませんが、それでは話が始まりません。

ここでは、2つの「指標」を用いて、客観的に23区内における練馬区財政について考えてみます。ちょっと専門的になってしまいますが、しばらくおつきあいください。

【経常収支比率】

～ 低いほど余裕がある ～

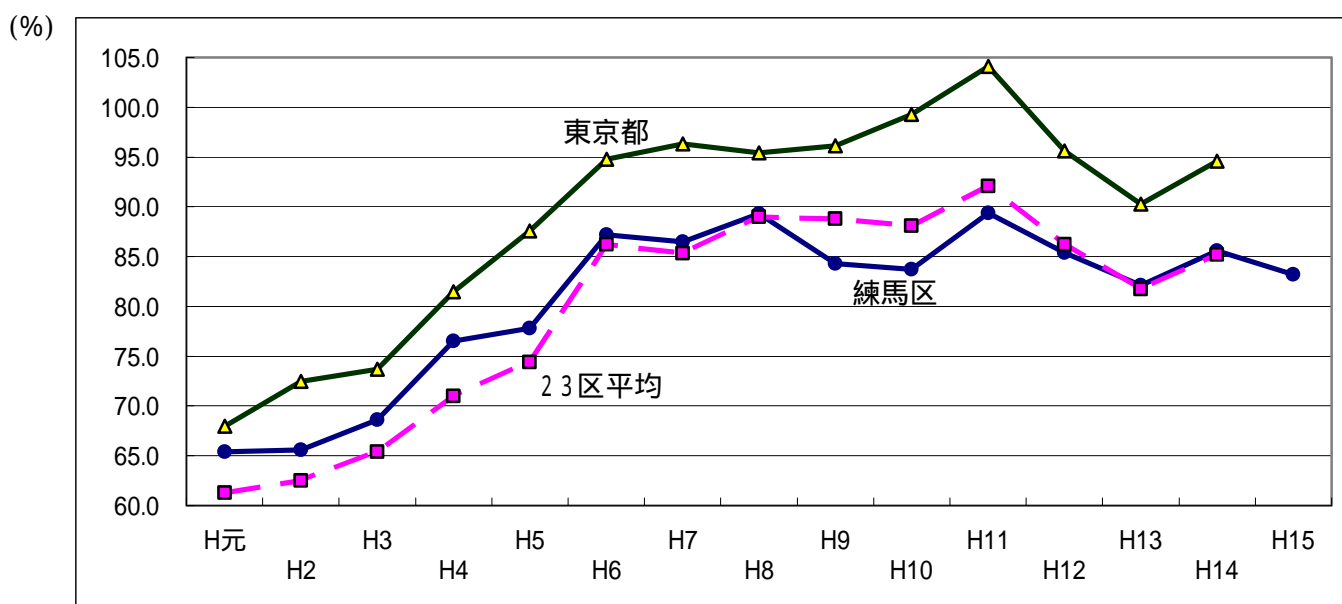
毎年経常的に支出される人件費・公債費・扶助費などにかかるお金が、経常的な収入に対してどれくらいあるかという割合です。この比率が低いほど、柔軟な対応ができる（健全な）財政状態だと言えます。

例えば、毎月の給料を30万円もらっているAさんが、生活するのに必要な基本的な支出（家賃、光熱水費、食費など）に18万円支払うとすると、経常収支比率に置き換えれば、 $18 \div 30$ で **60%** になります。同じ給料のBさんが24万円かかるとすると

80% になります。この場合、Aさんの方が余裕がありますよね。

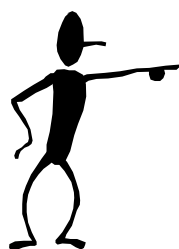
経常収支比率は、70%から80%がおおむね適正な水準といわれています。

練馬区・23区平均・東京都の経常収支比率推移（P35資料 3参照）



東京都および23区平均の数値（H15）は未確定のため未記載

わかった！



【経常収支比率】

練馬区は平成 15 年度は 83.2%で、前年度に比べて 2.4 ポイント改善しました。23 区で比べてみると、平成 14 年度においては 23 区中 16 位で、平成 10 年度の 2 位から毎年順位を下げて（悪化して）います。

【公債費比率】

練馬区は、平成 15 年度は 9.5%。適正水準にありますが、23 区中では 19 位（平成 14 年度）となっています。

【公債費比率】

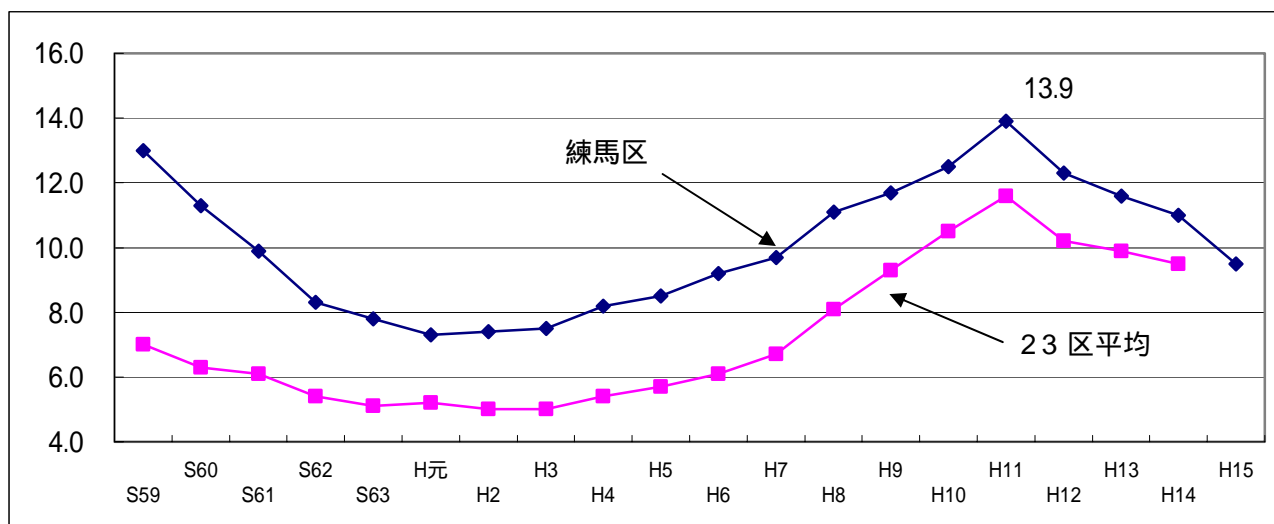
～ 低いほど「自由」な財政運営に ～

本来自由に使えるはずの一般財源を、どれくらい公債費（借金の返済）に使ったかという割合です。比率が高いほど、借金の返済が大変だということになります。10%以下が望ましく、15%を超えると「黄色信号（注意）」、20%を超えると「赤信号（危険）」とされています。

ちなみに練馬区は平成 15 年度末で 9.5%となっています。

練馬区と 23 区平均の公債費比率の推移（P35 資料 3 参照）

(%)



23 区平均の数値（H15）は、未確定のため未記載

練馬区は、他区に比べて立ち遅れていた学校や公園などの社会基盤の整備を、借金をして急速に進めてきたため、23 区平均よりも高い数値となっていますが、平成 11 年度をピークに減少傾向にあります。

知ってましたか？ 練馬区のこんな一面

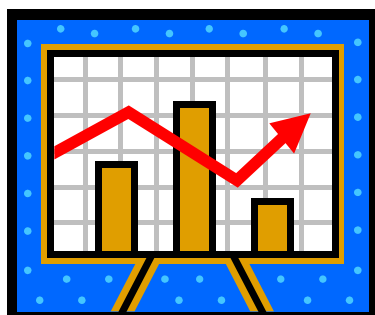


ここでは、今までの話に加えて、区の財政を理解するうえで参考になるような、少し雑学的な話をしてみようかと思います。肩の力を抜いて、読んでみてください。

練馬は若い区？

練馬区は23区の中で、最後にできた区です。他の区に比べて都市基盤の整備が遅れていたために、急激な投資を行ってきました。現在は、道路など都市基盤の整備も着実に進んでいます。

(P52 都市基盤整備状況 参照)



財調への依存状況は？

区の収入のうち、区税以上に大きな財源が、都から配分される「特別区財政調整交付金(通称：財調)」です。練馬区は、収入全体に占める財調の割合が23区中第9位！金額はなんと3位！（平成14年度）です。区自身で集められない財調に大きく頼っている練馬区は財政上の自立性が低い!?・・・

(P36 資料 4 参照)

練馬の福祉は・・・

どの分野にお金を重点的に支出しているか各区で比べてみると、福祉関係経費への支出割合は、地域性によって差の大きい生活保護を除く数字では、23区中第4位（平成14年度）となっています。

(P37 資料 5 参照)



ところで…

区財政は、どこがどう厳しいの？



区民福祉を増進するために、これまで区はさまざまな事業を行ってきました。いま、「地方自治体の財政状況が厳しい」と、よく言われます。練馬区の財政は、具体的にどこがどう厳しいのでしょうか？ここでは、区財政の現状についてお話しします。

義務的経費の増加！

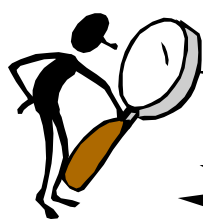
(人件費・公債費・扶助費)

収入(税収)が増えない！

滞納額が減らない！

預金(基金)が減ってきている！

国や都の補助金が減っている！



「区はつぶれない」「国はつぶれない」って本当の話でしょうか。これからのお話を読んでいただければ、区が、今と同じレベルの行政サービスを提供し続けるためには、大きな努力が必要だということが分かっていただけたと思います。